

みずほCustomer Desk Report 2019/08/16号(As of 2019/08/15)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.05
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	105.93	1.1145	118.01	1.2059	0.6755
SYD-NY High	106.79	1.1158	118.95	1.2150	0.6791
SYD-NY Low	105.71	1.1092	117.63	1.2050	0.6747
NY 5:00 PM	106.10	1.1108	117.79	1.2081	0.6777
NY DOW	25,579.39	99.97	日本2年債	-0.2800	▲1.00bp
NASDAQ	7,766.62	▲7.32	日本10年債	-0.2400	▲2.00bp
S&P	2,847.60	7.00	米国2年債	1.4714	▲10.78bp
日経平均	20,405.65	▲249.48	米国5年債	1.3956	▲9.77bp
TOPIX	1,483.85	▲15.65	米国10年債	1.5000	▲8.18bp
ソコ日経先物	20,195	70	独10年債	-0.7145	▲6.25bp
ロンドンFT	7,067.01	▲80.87	英10年債	0.4050	▲3.95bp
DAX	11,412.67	▲79.99	豪10年債	0.8825	▲6.90bp
ハンセン指数	25,495.46	193.18	USDJPY 1M Vol	8.35	▲0.08%
上海総合	2,815.80	6.88	USDJPY 3M Vol	8.31	▲0.02%
NY金	1,526.60	▲1.20	USDJPY 6M Vol	7.91	▲0.04%
WTI	54.87	▲0.36	USDJPY 1M 25RR	-1.93	Yen Call Over
CRB指数	170.03	▲0.61	EURJPY 3M Vol	8.76	0.23%
ドルインデックス	98.14	0.16	EURJPY 6M Vol	8.41	0.16%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月15日	10:30	豪 雇用者数変化	7月 41.1k	14.0k
	10:30	豪 失業率	7月 5.2%	5.2%
	10:30	豪 労働参加率	7月 66.1%	66.0%
	21:30	米 NY連銀製造業景気指数	8月 4.8	2.0
	21:30	米 小売売上高速報(前月比)	7月 0.7%	0.3%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	-	220k
	22:15	米 鉱工業生産(前月比)	7月 -0.2%	0.1%

【本日の予定】

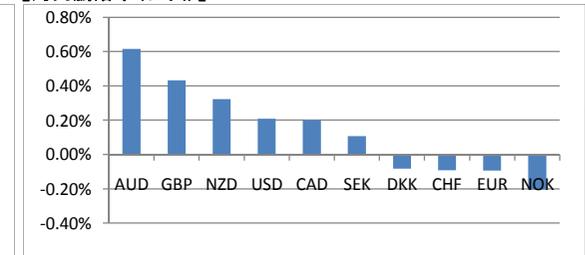
Date	Time	Event	予想	前回
8月16日	21:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	7月 1256k/1270k	1253k/1232k
	21:30	米 住宅着工件数/住宅建設許可(前月比)	7月 0.2%/3.1%	-0.9%/-5.2%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド速報	8月 97.0	98.4

アジア	東京時間のドル円は105.93レベルでスタート。前日米株の下落を受け日経平均が下落してスタートするもドル円の反応は限定的。公示仲値決定の時間にかかけ一時106.03まで上昇するもその後は反落し105円台後半で同意薄く推移し105.96レベルでクロス。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、105.96レベルでオープン。早朝には特段の材料が見当たらず、ファットフィンガーと思われる多大なドル買い・円売りによって一時106.79まで急騰したが、すぐ反発。その後、中国財政相が「必要な対抗措置を取らざるを得ない」と表明すると、貿易摩擦への懸念が高まる中で円が買われ、再び106.00を割り込み、105.71まで下落。しかし、中華人民共和国外交部が合意に持ち込みたがっていることが報道されると、再び106円台を回復。結局106.11レベルでNYへ渡った。ボンドは、1.2061レベルでオープン。朝方は、昨日発表されたCPIが好結果だったことからのボンド買いが継続。その後、-0.2%で予想されていた7月度小売売上高が0.2%伸びとなったことでボンド買い・ドル売りの勢いが強まり、1.2150まで上昇。その後、1.21台の前半で推移し、結局1.2130レベルでNYへ渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 マルヒル)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、106.00手前での小動きでスタートし、欧州時間に入ると、特段の材料が見当たらない中、大量のドル買い・円売りが入り、一時106.79まで急伸。しかし、誤発注による買いだったと噂される中、滞空時間は短く、106円台前半まで売り戻される。その後、米中貿易問題関連のヘッドラインに上下に振れる展開が続く、106.11レベルでNYオープン。朝方は米7月小売売上高が予想を上回ると、106.35まで上昇。しかし、米金利の低下や10時発表の米7月鉱工業生産が予想を下回ったこと等に圧迫され、106.10近辺までじりじりと下落。午後は米10年債利回りが2016年8月以来の1.5%割れが確認されると、ドル売りが加速し105.80まで下落。米金利の低下一服後、ダウ平均がプラス圏に浮上する動きを眺め、ドルは106.16まで買い戻され、106.10レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは、1.1150近辺の狭いレンジで小動き。独金利などは過去最低水準を更新したものの、米金利も低下している中、ユーロドルは身動きがとれず、1.1151レベルでNYオープン。朝方に発表された米経済指標が総じて予想より良好な内容だったことから1.1134まで下落。その後、「ECB理事会がバーのレーン氏が9月のECB理事会で一連の景気刺激策が発表されるとの見方を示した」と米紙が報道すると、ユーロ売りが強まり、一時1.1092まで下落。午後は米長期金利の1.5%割れを受けて、1.1118まで値を戻す場面もあったが、上値は重く、結局、1.1108レベルでクロス。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	105.30-106.30	1.1050-1.1150	117.50-118.50

【マーケットインプレッション】

昨日の海外時間のドル円はロンドン時間序盤にストップロスを巻き込んで一時106.79円まで急伸するも、その後、中国財務相が米国の追加関税に対する報復措置を講じる意向を示すと、米中通商問題への懸念から一時105.71円まで反落。NY時間に発表となった米7月小売売上高や米8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数など経済指標が好調であったことを受けて106.30円台を回復するも、米長期金利が1.5%を割り、ドルが売られ105.80円台まで下落した。ドル円の値動きは米金利動向に振られる展開が継続するものと予想。米長期金利の下降トレンドを受けて105円台まで下落推移する展開を想定する。米中通商問題や香港のデモ、トランプ米大統領に関するヘッドラインには警戒したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:光石・綱島